

## 交通インフラ整備と親日土壌で

### 地域、規模を拡大する対日生産

中国東北地方で最大の港湾都市である大連は、先進的な工業基地としてだけでなく、優れた農業圏域としても日本との結びつきを強めてきた。とくに近年は交通インフラ整備が急速に進み、相互補完の密接な関係を作り上げている。日本側の農産物需要は〈大連の農業〉を育成し、親日的な土壌は〈日本の農業〉の戦力となる農業研修生を数多く送り出している。



甘い香りに包まれた温室内では出荷作業がピークを迎えていた  
(大連向農農業発展有限公司)

日本と大連——農業分野でのかかわりを2回にわたってレポートする。

(取材・猪瀬和道)

<http://www.012.upp.so-net.ne.jp/kidalian/kazu-ino@ka2.so-net.ne.jp>

# 大連 レポート

## 日本と大連の 農業(上)

日本からの視察は年間100件

広い温室内は鮮やかなピンクの花をつけたコチョウランが咲き誇り、甘い香りを放っている。春節を前にした2月上旬は出荷の最盛期。従業員が花の部分をつまみ、丁寧に巻いて保護するなど箱詰め作業に追われ、「年末」の慌ただしさに包まれていた。

ここは大連市郊外にある金州区の大連向農農業発展有限公司。戸外は昼も零下10度前後の厳しい寒さにもかかわらず、4000平方メートルの温室内は二五度から二七度に保たれ、外から温室内に入ると汗ばむほどだ。いま咲き誇っているコチョウランの出荷先は中国国内だが、つぼみの状態で日本にも輸出されている。

「コチョウランの日本向けは開花10日前の段階で出荷しています。当社では花だけでなく、野菜や果物の種など数多くの農産物を日本に輸出しています」と、語るのは孫永礼経理だ。

同会社は二〇〇一年三月に設立し、東京ドーム五七個分にも相当する二七〇ヘクタールの広大な敷地の中で、花きのほか、野菜の温室栽培、ブドウやメロン、スイカなどの果物を生産し、種苗の研究開発も行っている。従業員は四〇〇人だが、繁忙期には季節労働者を含めて八〇〇人にも上る。

年間生産高は約二〇〇〇万元。このうち対日輸出が半数を占め、その比率

は年々上昇傾向にある。日本から視察や商談に訪れる農業関係者も増え続け、同会社だけで年間100件にも及ぶという。大連は製造、IT分野における日系企業の進出が目覚ましい地域として知られているが、農業分野でも日本とのかかわりが密接になっているのだ。

孫経理は〈大連の農業〉の特性について次のように指摘した。

「まずは大連市政府の農業政策が素晴らしいこと。改革開放を積極的に推進したことによって日本など海外との協力が進み、農業技術の水準が高くなりました。また、中央政府に先駆けて二〇〇一年から農地を無税化にするなど様々な支援政策を打ち出しています。そして、日本との関係では距離が比較的近いことと、大連が出荷、運送に便利な港湾都市であることと、農民の日本に対する理解が深いことなどを挙げることができます」

### 旧工業基地振興が農業後押し

東北地方の国営企業を体質改善して市場経済における競争力アップを目指した中央政府主導の「旧工業基地振興」政策も、〈大連の農業〉を後押ししている。

大連は東北地方における経済の「優等生」であり、「旧工業基地振興」政策を牽引する責務を担っている。その





「日本との関係は深まる一方」と語る  
孫永礼経理

大連が都市づくりのテーマとして掲げているのが「国際航空運送センター」建設だ。国際的な物流基地として整備し、北部に広がる東北地方全域へのハブ機能を持たせようというものである。すでに昨年は三〇万トン級の原油ふ頭や遼寧省の省都・瀋陽と大連を結ぶ瀋大高速道路が開通するなど、着々とその体制を整えている。このようなインフラ整備は大連地域の農業も活性化させている。

大連広域市のひとつである瓦房店市に進出して一五年目を迎えた大連松井味噌会社の松井健一総経理は「確かに高速道路の開通などによって、農業面でも日本との関係は広域的になっ

て「大連の農業」の現状をつぶさに見てきた。高速道路網が整備される前、日本の食品関係会社は大連市内から東北へ約五〇キロ離れた金州区の農家と契約栽培したり、作物を買い付けたりしていた。しかし、高速道路の開通によって、金州区よりさらに北部に

置する瓦房店市、普蘭店市、庄河市のいわゆる大連広域市の「北三市」にある農家と契約するケースが増えているという。地域、規模的にも対日関係が拡大しているのである。

「対日輸出の野菜といえば、価格や作物の種類が多さ、通年供給量から見ると山東省が優位でしょう。しかし、大連近郊の農家は熱心であるし、地理、交通の利便性からも日本との結びつきは深まる傾向にあります。ジャポニカ種のお米や果物、カンピョウ、ヤマゴボウに加え、水が比較的豊富にあることから、最近ではワサビの契約栽培が増えていきます」

### 進出目指す日本の投資家たち

大連の農家との契約栽培による農作物の輸入だけにとどまらず、農業の生産分野に進出しようとする日本の投資家、企業も少なくない。長野県木島平村に本社をもつ瑞穂建設会社もそのひとつ。建築などを業務としているが、グループ企業では農産物を扱っており、こうした実績とノウハウを生かして中国で農業分野の事業展開を目指している。

その足がかりとして昨年六月、瓦房店市に農業法人を立ち上げた。具体的な展開は検討中だが、将来は水耕栽培でソバを生産し、ソバから健康促進の成分を抽出して、健康補助食品のサブ



街道添いに並ぶ農家と温室（大連広域市の普蘭店市内）

リメントとして売り出そう、という構想だ。消費者ターゲットは、健康ブームが到来するであろう中国国内だ。

調査、準備活動を行っている同社の堀内道明・中国部長は「大連は安全な都市であるし、歴史的にも日本人にとって親近感があります。そして大連から北に広がる広大な東北地方は一億人以上の人口を抱える巨大なマーケットでもあり、ビジネス上の可能性を秘めています」と、大連の優位性を強調した。

### ※メモ【大連の農業生産額】

大連市における農林、畜産、漁業の〇三年総生産額は前年比一四パーセント増の二四七・二億元で、このうち農業は六四・四億元で過去最高を記録した。生産品目別に見ると、穀物九九・九万トン（前年比一四・二％増）、野菜二二・一万吨（同四・四％増）、果物七九・二万吨（同二・四％増）、畜産三八・一万吨（一九・四％増）など、それぞれ大幅な伸びとなった。

## <縁通から便利なIT付加価値サービスシリーズを提供>

サービスその1 アンチスパムASPサービス  
煩わしい迷惑メールを撃退します。

サービスその2 グループウェアASPサービス  
オフィスコラボレーションに欠かせないツールです。

サービスその3 JP1リモート管理ASPサービス  
システム運用管理ツールJP1でIT管理をお手伝いします。

上海縁通は中国進出の日系企業にITサービスを提供する会社です。

- 高い水準のIT総合技術力
- 日本と同レベルのきめ細かいフォロー（日本語・中国語での対応）
- ICPライセンスは取得済み

<ASPプラットフォーム、携帯コンテンツプラットフォーム、Online課金システムで共同ビジネス展開>  
2005年2月よりNTTコミュニケーションズと共同でWeb版ワンタイムパスワード認証ASPサービスを中国で業務開始。名称は「随碼通」。

2005年3月よりオンライン画像販売のデジタルアーカイブ社とビジネスパートナーとして中国で業務展開。

電信增值服務許可証番号：沪B2-20030153



上海縁通科技有限公司  
YUANTONG TECHNOLOGIES CO., LTD

上海市浦东新区浦東南路1088号  
中融大廈1201室 200120  
TEL: (86) 21 5102 6200  
FAX: (86) 21 6888 8630  
URL: www.yuantong.cn  
E-mail: info@yuantong.cn